

(11) 沖 縄



沖縄地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 観光は増加傾向にある。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

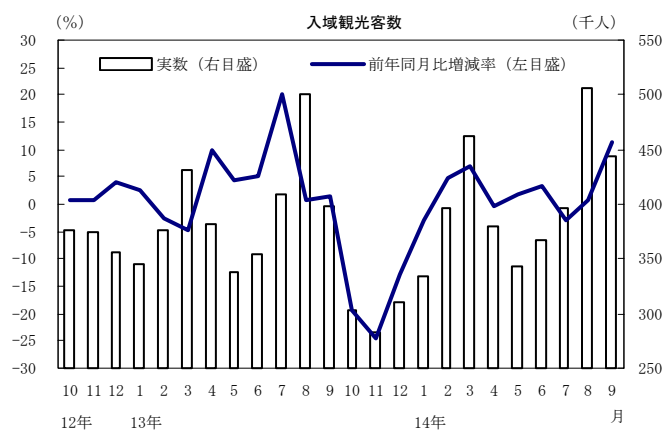
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	↑

1. 生産及び企業動向

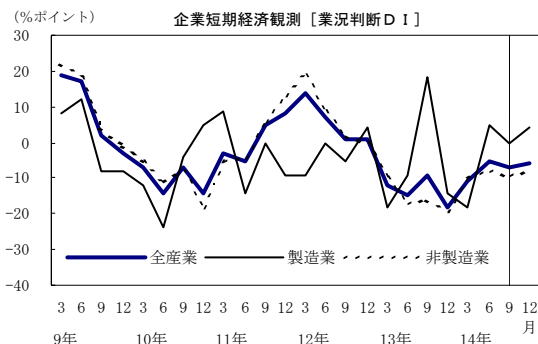
(1) 観光は増加傾向にある。

入域観光客数は、7月は平年を大きく上回る5個の台風が接近したことにより航空機と船舶の欠航が相次ぎ前年を下回ったものの、8月は割安な商品の販売増加等から概ね好調に推移した。9月は上旬に再び台風の影響を受けたものの、低価格商品の販売増や3連休の増加等により、同月として過去最高を記録した。また、主要ホテルの客室稼働率は、7月は前年を下回ったものの、8、9月は前年を上回る高水準を維持した。

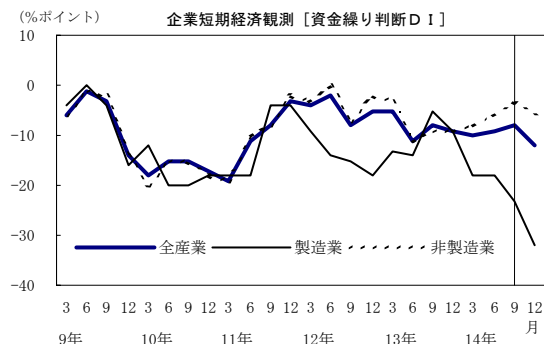


(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

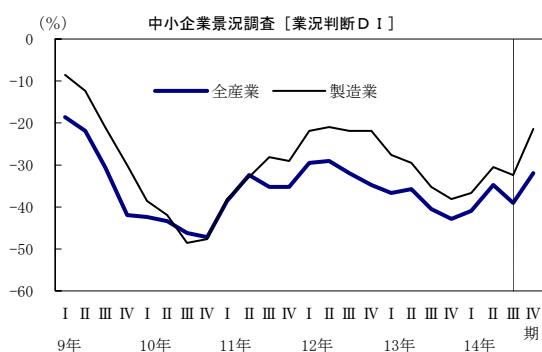
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。
 九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「受注量が徐々に増加傾向にある (建設業)」など、「やや良くなっている」とする回答などが多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を上回っている。

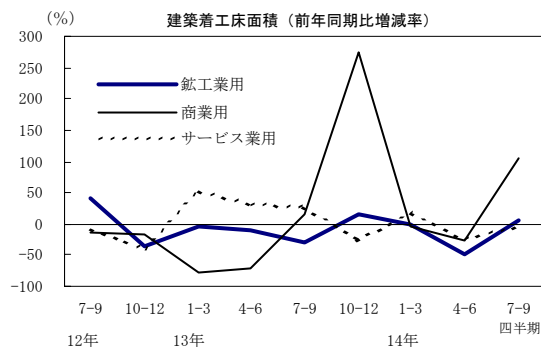
14年度の設備投資額は、製造業では食料品を中心に前年度を下回るものの、ウェイトの高い非製造業において大型小売店の新規出店により前年度を上回ることから、全産業では前年度を上回る見通しとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲4.0	16.1 (▲6.3)
製造業	▲32.0	▲12.0 (3.9)
非製造業	1.6	19.8 (▲7.2)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

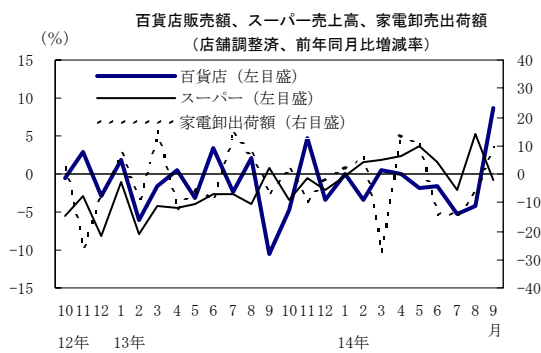
百貨店は、7月は台風の影響があり、8月は法人向け中元需要等が低調であったことから、いずれも前年を下回った。9月にはプロ野球の優勝セールや営業時間延長効果等により衣料品や身の回り品を中心に好調で5か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、7月は台風の影響があったものの、8月は旧盆のズレやクリアランスセールの前倒し等により食品や衣料品が好調で前年を上回った。9月は前月の増加の反動により不振だった。

家電は、DVDやプラズマテレビ等一部の高額品が堅調であるものの、エアコンが天候要因により前年を下回ったこと等により、7～9月期は前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [家計動向関連D I (現状判断)]

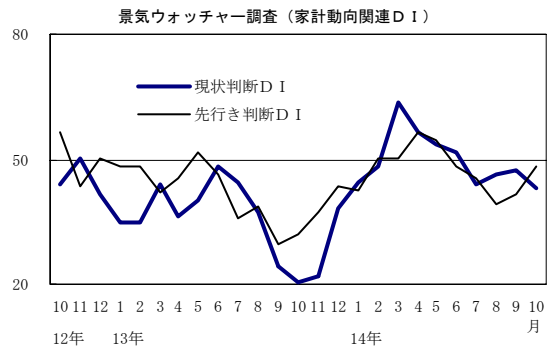
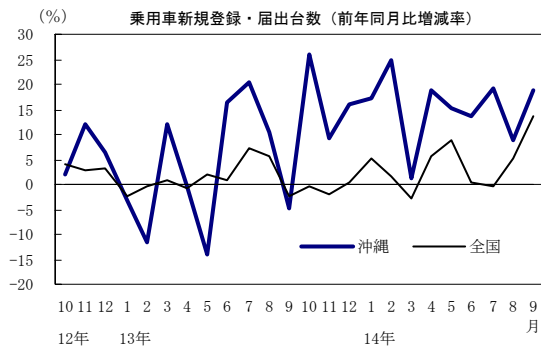
「宿泊部門は順調に推移しているものの、地元客をメインとする宴会部門、料飲部門の動きが低調となっている(都市型ホテル)」など、「変わらない」とする回答などが多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
百貨店	▲1.4	▲0.8	▲1.0	▲0.9
スーパー	▲2.0	1.0	2.5	▲3.4
家電卸出荷	▲3.2	▲10.3	1.1	▲5.2
乗用車	16.5	10.3	15.7	16.2
景気ウォッチャー	26.9	52.1	53.9	46.0

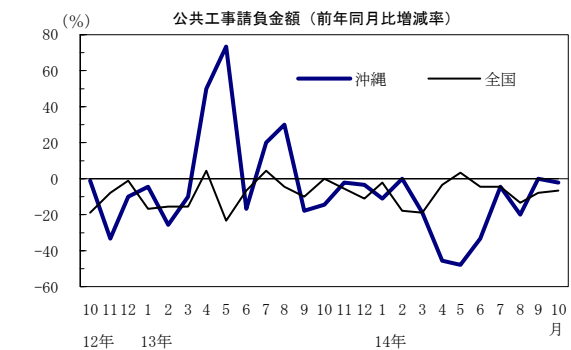
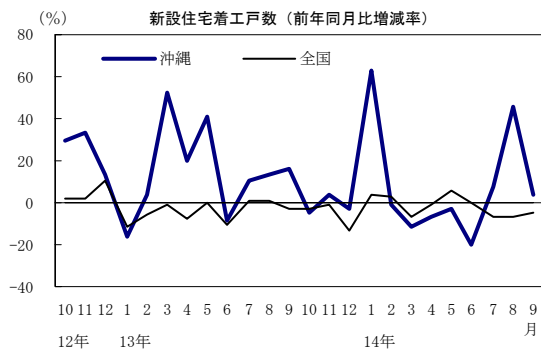
- (備考) 1. 百貨店販売額、家電出荷額は沖縄銀行調べ。
2. スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家が前年を下回ったものの、ウェイトの高い貸家が増加したことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

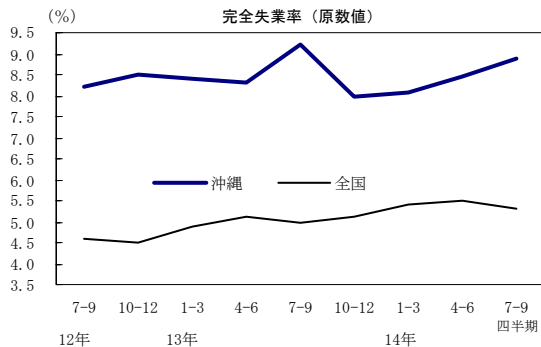
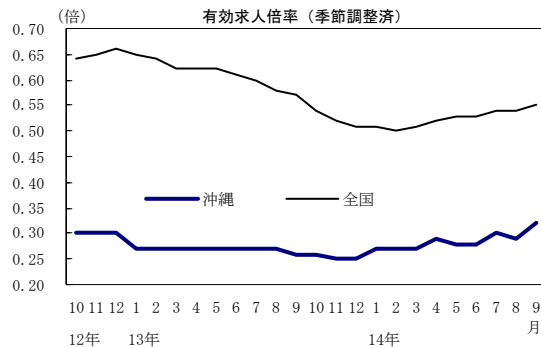


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を下回っているが、高い水準にある。



(備考) 失業率は、沖縄県企画開発統計課「労働力調査」より。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

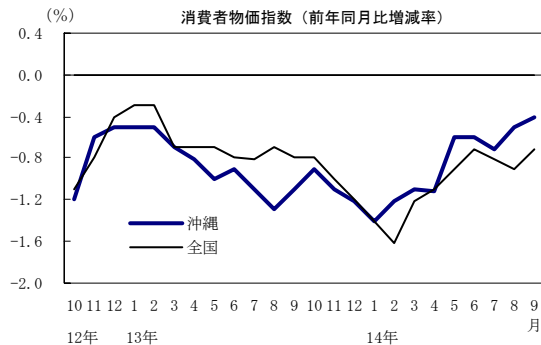
「派遣スタッフから仕事を紹介してほしいとの問い合わせが多くなっている (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	30	28	26	33	8
(前年比)	▲16.7	0.0	▲13.3	▲5.7	▲38.5
負債総額	73	71	56	73	22
(前年比)	20.6	▲17.6	▲77.3	▲50.7	▲56.0



○ 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・県内最大のショッピングセンターがオープンしたことから、価格競争等、当分厳しい状態を強いられる (その他専門店 [楽器])。

<先行き>

- ・外周部の大型店に客が流れており、中心市街地は非常に危機的な状況にある (商店街)。

